

科目区分：外国語科目（ドイツ語）

授業科目名	ドイツ語					学期	曜日	校時
英語名	German							
担当 教官名	濱崎 一敏	単位数	1 単位	必修 選択	必修	前期	火曜日	校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>ドイツ語文法を主とした授業である。文法説明、ネイティブスピーカー吹き込みによるカセットテープを用いた発音練習、それから練習問題にもとりくむ。辞書をひきこなせる力を目標とし、同時に日常会話の初歩を練習する。</p> <p>外国語の習得は、単に文法、語彙、構文を暗記する作業であるわけではない。文化的な諸事象、人々の振る舞い方、思考様式の違いに眼をむけ、これらを理解し尊重し相互理解の可能性を追求していくとともに、日本という国に住むわたくしたちの現実の在り方を問い返し、新たなよりよい次元にいたるため多くを学ぶことだと自覚してきたいものです。</p> <p>学生 2-3 人のグループ分けをして自主的な研究をうながすなど、一方的、受動的な授業にならないように配慮する。時間の余裕をみて、ドイツの名作・ドキュメンタリー映画も上映する。内容ゆたかで楽しい授業！</p>								
テキスト、教材等								
火曜日 校時 L：前田 / 高木著 『身につくドイツ文法』（2003 年、郁文堂）								
対象学生	成績評価の方法				教官研究室			
L 1・2	定期試験、中間試験、平素の学習態度（「遅刻」を含む）および毎校時行なう出欠調査などを総合して評価する。							
授業計画								
<p>初修の外国語であるから常に発音練習に重点を置き、各品詞がもっている形態と機能について学んでいく。</p> <p>ドイツ語と英語とは、インド・ヨーロッパ語族に言語系統の起源をもち発展してきたいわば「兄弟言語」である。両者の共通点は少なくない。しかし、細部において異なる部分も多々あるから留意しながらほぼ以下の順序で授業をおこなう。</p> <p>(1) 人称代名詞。二人称は親称と敬称の二種類がある。(2) 動詞。現在形や過去形においても人称に応じて変化語尾がそれぞれ異なる。(3) 名詞。英語と違って、すべて男性・女性・中性いずれかの性をもちかつまた四つの格をもっている。(4) 冠詞。定冠詞は 16 個、不定冠詞は 12 個ある。これらの語尾は、直後にくる名詞の格を示す機能をそなえている。名詞の格を示すために形容詞の語尾などにも多種多様に応用される。(5) 形容詞。名詞を修飾するばあいには変化語尾をとる。(6) 前置詞。直後にくる名詞は何格であるべきかがひとつひとつの前置詞に定められている。英語のように目的格ばかりとはかぎらないのである。(7) 話法の助動詞。英語の助動詞とほぼ同じように考えればよい。しかし、動詞の原形は文末におかれる、というのがおおきな違いである。(8) 分離動詞。ドイツ語にはある条件下でふたつに分離してしまう動詞がある。</p> <p>再度強調しておきたいが、外国語の習得は単に技術的に言葉を覚えることではない。言葉はその国の歴史、思想、制度、システムなど文化の総体を内包している。ドイツの「神」は日本の「神」ではない。ドイツの「大学」は日本の「大学」とは歴史的にもシステムにおいても、おおきく異なっている。この点に注目していく姿勢を失わないことが大切だと思います。</p>								